



阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

資料室 ニュース

Vol.37
2009年1月
●発行●

特集

「阪神・淡路大震災の記録活動」

今回は、阪神・淡路大震災を伝えるために行われた記録活動を取り上げます。震災の記録活動と、それによって生まれた資料などを当センター所蔵の関連資料とともにご紹介します。



阪神・淡路大震災後のさまざまな記録活動と資料収集活動

阪神・淡路大震災後、震災の被害や経験を伝えるために記録を残そうとする活動が各地で起こりました。「記録を残す」と一言と言っても、方法としてはさまざまあります。例えば震災後の自分の心情や体験を文章として残す方法、絵本として残す方法など、紙に書き記すことで残すやり方があります。また、被災地の風景や人々を映像として残す方法、写真として残す方法など、当時の状況そのままを目に見える形で残すやり方もあります。そして、自分自身の体験だけでなく、人の体験を聞き取り、書き起こすことで残す方法などもあります。このように、記録の方法は幅広く、いろいろな形で残されています（次頁以降参照）。また、これらの記録活動の担い手も、個人から民間団体、公的な団体まで幅広く、記録活動で残された資料を収集保存する動きにも発展していきました。

震災に関わる資料を収集している機関にも、民間の団体から公的な団体、大学まで幅広くあります。人と防災未来センターもその一つですが、その他にも、公的な施設としては、兵庫県立図書館フェニックス・ライブラリー、神戸市立中央図書館1.17文庫、人・街・ながた震災資料室、北淡震災記念公園などがあります。また、大学に関係する資料収集機関としては、神戸大学附属図書館震災文庫、KOBEnet（東京大学生産技術研究所内）などがあります。民間の団体としては、主にボランティア活動に関する資料を収集している、震災・まちのアーカイブなどもあります。資料を収集しているこれらの団体は、それぞれの特色を生かした収集活動を展開してきました。



地震後、兵庫県広報課は、被害状況を記録する写真を撮影しました。

兵庫県広報課撮影

引用・参考文献

震災復興調査研究委員会編（1997）『阪神・淡路大震災復興誌第1巻』p196-198

震災復興調査研究委員会編（1998）『阪神・淡路大震災復興誌第2巻』p125-133

震災復興誌編集委員会編（1999）『阪神・淡路大震災復興誌第3巻』p163-168

記 録活動によって生み出された資料

震災を記録する活動によって、さまざまな形の記録資料が生まれました。そのいくつかをご紹介します。



「阪神大震災を記録しつづける会」の手記

「阪神大震災を記録しつづける会」は、震災約1ヵ月後から、震災にかかわったすべての人を対象に、体験記を公募しはじめました。そして、集めた震災の被害や復興の記録の一部を単行本として発刊しました(写真左)。手記の公募と単行本の発刊は

震災後10年間続けられ、

2005年1月に最終巻である第10巻が発刊されました。最終巻までに、合計で433本もの手記が掲載されています。

また、単行本に収録されなかった約700本の手記の原稿は人と防災未来センターに寄贈されています(写真右はその一部)。中には、数年に渡って手記を投稿している方もおり、震災を体験された方のその後の生活や気持ちの変化などをうかがい知ることができます。



映像記録 「野田北部・鷹取の人びと」

被災から復興までを残した映像記録もあります。「記憶のための連作 野田北部・鷹取の人びと」は、野田北部を記録する会が、震災直後から1999年4月までの4年3ヵ月にわたって、被災地の一地域である野田北部・鷹取の風景を撮影した記録です。特に、震災後のコミュニティ再生の様子をとらえた全14巻にもおよぶ長編ドキュメンタリーです。



絵本 「あの日をわすれない はるかのひまわり」

子どもたちに震災で起こった出来事をわかりやすく伝えるために絵本として出版されたのが、「あの日をわすれない はるかのひまわり」です。この絵本は実話を元にして描かれた、震災で被災した家族の物語です。

体験談の映像記録 「ユース震災語り部 私の語り」

自分の体験を人に語るというのも、震災を伝える一つの方法ですが、その様子を映像として残したのも記録の一つになります。2008年、人と防災未来センターは震災当時に幼児から高校生だった世代の人たちを対象に、自分の震災体験を語ってくれる「ユース震災語り部」を募集しました。語り部に応募してくださった27人の体験談は、DVDに収録し、当センター資料室で防災教育の教材として貸出も行っています。





遺族の聞き語り調査 「犠牲者の記録」

震災の犠牲者ひとりひとりの事実を詳細に記録し、後世に残すために、1998年に神戸大学工学部有志のボランティアによって震災犠牲者聞き語り調査会が発足しました。同会は亡くなられた方の遺族に聞き取りをつづけ、これまでに359人の犠牲者の記録を作成しています(2008年12月時点)。そして、現在も調査協力者を募っています。(ホームページアドレス: <http://www2u.biglobe.ne.jp/~shinsai/kikigatari/>)

遺族の了承を得ることができた記録は、当センター資料室で公開しています。



関連図書紹介



震災の記録活動に関連する図書・資料です。

資料室に所蔵していますので、関心を持たれた方はぜひお越しください。

題 名	著者・記事作成者	発行者・発行者
「仮設」声の写真集 —阪神大震災 もう一つの記録—	阪神・淡路大震災「仮設」支援NGO連絡会(編)	市民とNGOの「防災」国際フォーラム実行委員会
阪神大震災 被災者100人の証言	二葉由美子(編)	創芸短歌社
生者と死者のほとり ～阪神大震災・記憶のための試み～	笠原芳光・季村敏夫(編)	人文書院
詩集 明日への記憶 ～1・17のために～	鎌田早恵(編)	震災復興支援コンサート実行委員会
震災が残したもの	A-yan Tokyo(編)	A-yan Tokyo
神戸の壁 保存活動記録 Vol.1～3	リメンバー神戸プロジェクト	リメンバー神戸プロジェクト
忘れられない…あの日 —神戸からの声—	留学生震災文集編集委員会(編)	留学生震災文集編集委員会
四丁目の「まさ」	玉川侑香	比良出版

震災資料をお持ちの方に

人と防災未来センターでは、現在も震災資料の収集を続けています。震災後、すぐには手放せなかったものの、震災の出来事を伝えるために活用したいとお考えの方や、お持ちになられているものが資料になるのかどうか分からないという方は、一度資料室までご相談ください。

【資料室直通電話番号:078-262-5058】

新着資料紹介 ～新たな貸出写真資料が出来ました～

川西市在住の中川氏（70代男性）より、約1500枚に及ぶ写真資料が寄贈され、資料室での整理が完了しました。当センターのホームページでも、順次公開していく予定です（検索：調査先番号420）。これらの写真は、大震災当日の1月17日から4月にかけて、被災地全域を精力的に回り撮影されたものです。今後は、大震災を語り継ぐための貸出写真として活用されることが期待されており、提供者の中川氏もそれを強く望んでおられます。

中川氏は、20歳頃から趣味で写真を撮っており、普段は花や風景などの撮影を得意としています。大震災時、兵庫県川西市の自宅は無事でしたが、阪急春日野道駅近く（神戸市中央区）で80歳を超える叔母が一人暮らしをしていたため、心配で17日当日にバイクで叔母の家へ向かいました。これらの写真は、その道中で撮られたものです。火災現場を撮影する際には、罪悪感もあり、遠慮して人の影から撮っていたとのこと。倒壊家屋の下から、木の担架に寄せられ運ばれていく人たちも何人か見ましたが、さすがに撮影はできなかったようです。

叔母は2日間避難所に入っていました。その後自宅に戻ったので、水や食糧を川西市で購入し届けようになりました。叔母の家に通い続けていたので、継続して写真を撮り続けることになりました。また、叔母の他にも数人の知人宅を訪れたので、その際に撮った写真も多く含まれています。中川氏のこだわりは季節感ある花です。瓦礫の山と化した被災地にあっても、春を迎えて咲き誇る花々が印象的です。



1/17阪急伊丹駅の被災状況
0000420-001001-001.00008



1/17軒並み倒れた電柱（東灘区）
0000420-001009-001.00002



1/17神戸市灘区の火災現場
0000420-001012-001.00004



1/19横倒しの阪神高速道路
0000420-001036-001.00007



1/26倒壊したマンション（西宮市）
0000420-001086-001.00001



1/28焼け跡（長田区）
0000420-001124-001.00003



2/11マンションに押し潰された車（西宮市）
0000420-001174-001.00011



2/17長田区豊取商店街での法要
0000420-001201-001.00012



4/2倒壊したマンション（東灘区）
0000420-001285-001.00002



4/10災害派遣隊と被災地に咲く桜
0000420-001312-001.00001

(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
阪神・淡路大震災記念

人と防災未来センター 資料室（防災未来館5階）

資料室は無料で
ご利用いただけます

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

TEL.078-262-5058 FAX.078-262-5062

HPアドレス <http://www.dri.ne.jp>

開室時間 9:30～17:30

開室日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日） 12月29日～1月3日